

関東ブロック

ユネスコ活動研究会

in 栃木・佐野

「つなげよう次の世代に」 ユネスコの英知」をテーマに開催

平成27年10月24日・栃木
於・佐野短期大学

佐野少年少女合唱団と佐日太鼓の演奏で幕を開けた。

栃木県ユネスコ協会の会長、実行委員長、日ユ協連の挨拶が続く。基調講演は「私とユネスコ」と題し、ユネスコ総会政府代表を歴任した上野通子氏によってされた。「戦争は人の心の中で：」で始まるユネスコ憲章前文の次節「相互の風習と生活を知らない事は、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信の為に：戦争になった。」との表現に重要な意味があるとの指摘、解説には説得力があった。



佐野短期大学・会場



蓮田・白岡地方ユネスコ協会・参加者

各分科会報告

第1分科会

テーマは、守り伝えよう世界遺産「日光の杜寺」を日光ユ協より発表された。当協会は1999年設立。中心的動きは世界遺産周辺の環境モニタリングで、夏休み等を使い

第2分科会

「ユネスコスクールと民間ユネスコ活動の役割」を地域に増加させる為に、校長をはじめ多方面から根気強い働きかけが必要である」と、藤岡ユ協の岸正博氏が強調。そ

第3分科会

①港ユ協報告。留学生と交流が盛ん（慶大及び玉川大、新宿ユ協とフォーラム）。宇都宮ユ協とも留学生交流を実施。悩みは学生3年になると就活があり活動が停止する。

第4分科会

「ユネスコ活動の活性化と情報化」田村会長・平賀理事・私・杉原がと参加した。

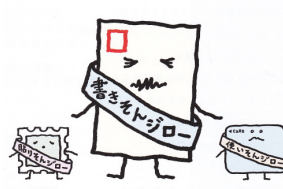


当ユ協会と深谷ユ協会様

話を聞くだけと思っただら、5班に別れて演習となりました。遠慮なく話を得た話ができただか心配。ツール（会報・HP等）はあっても活動内容が楽しく・学べないと、人も来ず。子供にも伝わらないと理解できませんでした。まずは、親を理解させたい。

の高校ユ協を結成、テーマを持って活動。課題は国際理解関係の活動が減少してきているので、若い世代へ繋いでいく具体策が必要であるとの事。

11枚の書きそんじハガキでひとりごと月学校に。



書き換じハガキ
回収のお願

第12回地域文化遺産スタデイ（平成28年2月20日開催）の会場に、回収箱を設置させていただきました。書損じハガキ・未使用切手類等を集めております。ご協力をお願いいたします。

編集後記
今回も会員の方からご協力いただきました。無事、会報「きずな」の発行に至りました。今後も会員皆様の投稿や編集のご協力をお願い申し上げます。
（小野寺記）

きずな



蓮田・白岡地方ユネスコ協会

第9回国際文化スタデイ

「お互いの文化を認めあう事の大切さ」

金裕鴻講師の熱弁 3時間に及ぶ

国連ユネスコ創設70周年

日韓外交正常化50周年に因んで
平成27年7月26日（日）会場：はびすしらおか



講師 金 裕鴻（キム ユホン）さん

講演は午後2時からじまった。当日は猛暑に加え、白岡高校が全国高校野球埼玉県予選決勝進出という快挙と重なり、出足は如何と案じました。参加者80名の盛況でした。

講師は元NHK国際局アナウンサーでハンダグル講座の講師、日韓両国の文化にも造詣が深い泰斗・金裕鴻先生です。主催者を代表して田村会長から、ご光栄戴いた金先生への謝辞と開催の挨拶を致しました。続いて秋葉白岡市副市長、白岡市長島教育長の祝辞を戴き講演が始まりました。

先生は日本への留学に至る経緯、韓国語講師への道、60年に及ぶ日本の生活や韓国語指導を通じて得た日韓両国民の文化や行動様式、価値観などの相違について平易な事例を列挙しながら、熱っぽく語りかけました。例えば、食堂で定食を注



会場内

文した場合、韓国人の場合には好きなおかずがあればそれを先に食べてしまいがち。日本は日本は全てにおいて計画的だが、韓国人は衝動的に動く面が多い。洗顔するに、韓国人は首筋から顎全体を豪快に大量の水を使って洗うが日本人はおとなしめに洗う（洗顔で韓国・朝鮮人と日本人を識別した時代があった）議論好きな韓国人と苦手な日本人の例。韓国人はまるで喧嘩をしているかのよう口角泡を飛ばして議論する。しかし、云いたい放題言つたあととは納まる。相手を意識して思いやりを見せる日本人とそう



ご来場者

でない韓国人。久しぶりに知人に会った際、日本人は「お若く見えますね」と等と気遣う言葉をかけるが、韓国人は「随分歳を

とりましたね」等と率直に気持ちを表現するので、相手の気分を害してしまうことが多々ある。日本人は規則を順守する。韓国人は規則の中で抜道を探そうとする傾向がある。ほかに多くの事例を挙げ両国民の行動様式、考え方、価値観等に関する相違点を説明されました。多くの事例で、現在では改善されている点もあるので留意との事。

知ろうとする努力が必要である。またどちらが良いか悪いかという事ではない。人間はとかく自国の文化や習慣を正しいと考える傾向がある。「大切なのは此方が良いか、其方が優れているかという事ではなく、異なった文化、社会がある事をお互いに認め合うことが大切」と力説されました。講演時間を大幅に超過しましたが、先生の話の奥深さ、熱意に圧倒され、途中で退席者もおらず、非常に充実した3時間となりました。

予告

第12回 地域文化遺産スタデイ

蓮田・白岡の中世(Ⅲ)

平成28年2月20日午後2時～4時

会場 はびすしらおか

今回は、名城岩槻城の築城（太田道灌・のぼうの城の成田氏も関係あるか・・・）から落城までを斯界の研究で第一人者の青木講師をお迎えすることになりました。

伝説に包まれる城と地政学的観点から謎が多い武蔵・下総（土河側）との国境の話も交え「学びの

場の提供」とさせて戴きます。お誘いあわせの上、ご来場をお待ち申し上げます。

全国大会 in 沖縄は、宜野湾市のコンベンションホールで開催
日程・6月25日（土）
26日（日）

関ブロ研究会 in 東京は、会場「青山学院大学」で開催
日程・9月3日（土）
4日（日）



第14回文化遺産めぐり

世界遺産・埼玉県小川町 細川紙・見学

12月6日(日曜日)

当日、晴れ・風強し。10時・蓮田駅前から寒さがきびしいなか、初めてのバス旅行が開始された。田村会長の歓迎の挨拶後、自己紹介(平賀理事と縁の福島・猪苗代のさくららの会皆様の紹介あり)江口理事の軽妙な司会進行で気分も和らぎ、あつと云う間に道の駅「おがわまち」に到着。



参加者39名 (6歳～83歳まで)

うどん昼食の後、隣接の埼玉伝統工芸館で堀口館員から施設概要と細川紙の説明を受ける。併設の映像展示室・ノリタケ特別展示室など見どころ満載、紙漉き体験希望者



紙漉き体験

13名は懇切な技術指導を受け、熱心にハガキ作成に精を出す。紙漉き作業と見学後、幼稚園・小学生4名を交えた全員で記念写真を撮る。小川は、武蔵丘陵からの清流を受け、地下水も豊富。古くから酒醸造が盛ん。現在も晴雲、帝松(松岡醸造)、武蔵鶴の三つの蔵元があり、今回は晴雲酒造に立ち寄った。生憎仕込み時期と重なり、醸造所への立ち入りは出来なかったが、蔵元の説明と試飲のおかわり自由で、皆満足。帰路は車内で、ピング・クイズ



猪苗代のさくららの会皆様

を実施「故郷」の大合唱もあり、準備委員が用意した特別設えのお楽しみ袋・各位毎(女性参加者のみ)名前入り、手作りのしおりが渡され皆感激。(匿名希望)参加者談「いやあ、楽しかった。久しぶりでバス旅行を満喫致しました。」「・・・準備委員の皆様には感謝感謝です。」「また、参加したいと思います。」



埼玉伝統工芸館の見学

今回は6歳から83歳までの参加者が楽しく、歴史を学び、世代間の交流もまずまず出来たと思います。準備委員(江口・斉藤・平賀・杉原)は、今回皆藤さんが喜んでくださったことを励みとし、また頑張ります。

ユネスコスクール 記念プレート贈呈式

蓮田中央小学校・蓮田中学校

9月5日、市役所において、蓮田中央小学校、蓮田中学校の両校長、教頭並びに教育長立会いのもと、ユネスコスクール記念プレートの贈呈式を執り行いました。今回の埼玉県内におけるユネスコスクールとしての認定は、基本的理念を繋げることに、当協会として少しではありますが寄与出来たのではないかと嬉しく思

特別寄稿

「時の流れに身を寄せて」

矢上匡孝(元団体役員)

「時の流れに身を寄せて」出生地は白河、福島県の西部・那須連峰の麓「白河の関」の白河です。阿武隈川の水源は那須連峰です。

川の流れにのってどうやら宮城県下の河口まで、途中洪水や濁流に遭遇しても無事に着きそうです。

時は「過去」から「現在」「未来」へと一定の速度で「時事」を刻みながら去って行く。「我が人生の四季」「春季」この世に生を受けてから結婚までを春季と決める。

生まれてすぐに、「建国」間もない満州に渡り

を務め、現在は教育委員

①蓮田市の児童・生徒のさらなる国際理解の推進と、ユネスコ協会に、尽力していきたいと思っております。よろしくお願いたします。

長島 秀夫

(ながしま ひでお)



①白岡市出身。現在も白岡市です。

②白岡・春日部。越谷の小学校、教育委員等に勤務。今年度、福原前教育長より職を引き継ぎました。

③白岡市児童生徒の望ましい成長のために、白岡市民の学び楽しむために、皆様のご支援をよろしくお願いたします。

会員紹介

対馬 更生

(つしま こうせい)



みました。苦しくも、大変に楽しい旅でした。次は来春に四国から九州です。

①出身地
②今までの歩み
③ユネスコ活動について(敬称は省略しています)

山本 雅子

(やまもと まさこ)



私の現在の趣味はゴルフ、テニス、山登り、スキー。そして自転車(輪行)。特に、自転車は退職(9月30日)を機に、全国一周を計画し、10月7日から24日まで広島へ100km走りました。昔の仲間との飲み会も、十分に楽し



①愛知県丹羽郡扶桑町出身
②小学三年時に栃木県小山市へ転居。以降、

関口 茂

(せきぐち しげる)

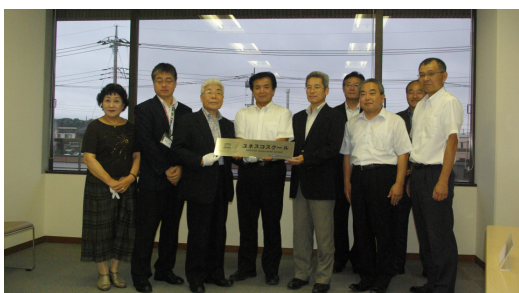


①埼玉県蓮田町出身
②蓮田町で四年間、浦和市で十九年間音楽科教師。以後教育委員会指導主事を経て浦和市、シンガポール日本人学校、草加市の各中学校長。平成十七年より八年間蓮田市教育長



(うつぎた みつはる)

①埼玉県加須市出身
②中学校の英語の教員として越谷市で11年、久喜市で10年間勤務した後、蓮田市教育委員として4年間勤務しました。その後久喜市内の中学校で教頭として2年間勤務し、平成27年度から蓮田市教育委員会学校教員として勤務させていただきます。



プレート授与式(蓮田市役所内)

います。今後、両校とともに活動していく方法を模索しながら進んでいきたいと思っております。

を過ごしました。皆さんのお陰で、私としては充実した期間でした。

さて「秋季」に入ります。私にとって人生で「夏季」は長い期間でした。家族にとつて、私の評価は、落第点に近い親父でした。家内に申し訳なく頭を下げるだけでした。秋季は「夏季」のことを反省して、社会奉仕に重きを置き出来るだけお子さんを中心にして活動の思案しておりましたところ、運よく、学童の下校路の「安心・安全を見守る会」に加入し、社会奉仕活動をはじめました。今年で9年目です。私は目頃物事の判断は「自然か、不自然か」で判断してきましたが、その判断基準は夏季に学んだ社会学です。下校は主に1年生だけです。下校途中に学童の話に合せて会話するのですが、学童は低い視線で物事を捉え、決して子供だからと見下げてはいけません、結構子供なりに知っています。こどもは良く観察しており、細かいことに感心があります。特に生き物に対して注意深いですね。秋は彩りが綺麗です。人生路の秋もきれいに歩いてみたい。「歩健II保健」歩健は私の造語です。友人が体調を崩し、リハビリに「歩き」は健康維持に良いと聞いておりましたら、歩きを「生活習慣化」しようと思ひ、とっさに生まれた言葉が「歩健」です。歩健も習慣化して7年目です。80歳を過ぎてやがて迎える「冬季」、いや、既に冬の季に入っているかもしれせん。